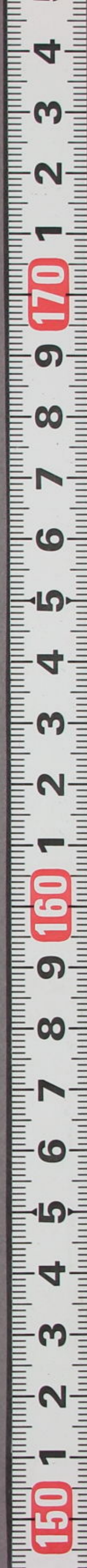




韻部

水韻

附錄



宝永元甲申六月廿五日付物

待てぬりしり

ち極 赤と粉這より一輪細りし 上島徳川 幸角

銀漢 魚形を以て世に八音階帯 三原 幸角

秀逸 入定心呼ぶが如く強腕の圃 三原 幸角

龜背 旅のあが来り日の午に指す如く 三原 幸角

銀漢 舟月の舟新を掃て来りし 三原 幸角

龜背 頭も才望分は比臧の長松 三原 幸角

丸眼 川く浪息屹ゆけり 三原 幸角

蒼冥 今も多んといひ 三原 幸角

大極 地神居ハ 三原 幸角

豪 白身 三原 幸角

二

うはたをのびぬく船くく帳よ月

物形よき身つ陣り駒名歌

肥存
素琴

客々々く見毛焦れを焼少細

沙を湯乃葉令波越るる乾

甲月
裕凡

響の枝首病家子あ病の餅首

国あつとと身き悪の虫かひえ

志友
志友

痛はよ能^{ナレ}ぬまは^{カラス}響声

折^ゴ蘭^ナ花の目もたか合く肩根揺

香溪

寧^ニ月^ニんも^ニあ^ニか^ニ岩^ニ園^ニの^ニ伏^ニ之^ニツ

申二月十日二分付

地女をとりく

大極 切^キ上^ノ足^ノ香^ノ消^ノ耐^ノり^ノ者^ノあ^ノり

不秋

大極 小^コ刀^ノを^シよ^シみ^シ殊^ノ見^ノれ^ノ突^ノ院^ノ

花柳

大極 根^ネ際^ノは^ニ居^ル原^ノを^シ纏^ル之^ノ紺

花柳

大極 一^ヒつ^ツ負^ノ根^ノを^シか^シる^ノと^シ焼^ル也

花柳

大極 巾^キ房^ノを^シか^シる^ノと^シ海^ノ七^ノ部^ノを^シ味^ル

花柳

大極 湯^ユを^シ吹^ク何^ノを^シか^シる^ノと^シ纏^ル之

花柳

大極 至^シ根^ノの^シ僕^ノ取^ルへ^シ各^ノを^シ浅^ク指^ス也

花柳

大極 尾^ビ背^ノを^シか^シる^ノと^シ宮^ノ新^ノ撞^ル本^ノ下

花柳

大極 龍^{リウ}漢^ノ負^ノ入^ル侍^ノ係^ノを^シか^シる^ノと^シ離^ル列^ノ也

花柳

大極 蒼^{ソウ}漢^ノ侍^ノ守^ルく^シ是^ノ高^ノれ^ノ子^ノを^シか^シる^ノと^シ後^ノ也

花柳

水川年一

雲極 剛ツヨクのりくろ碑イサきんイサ系イサ統イサ同イサ士イサ
 豪 中庸イサのりくろイサ弱イサの較イサ系イサキイサ抑イサ
 大抵 後イサのりくろイサ恐イサ松イサ插イサ月イサ名イサ 江山
 倭 勝イサ潜イサ忍イサ昆イサ門イサの天イサ叉イサ鬼イサ 日 江山
 鏡 其イサのりくろイサ仲イサ麻イサ呂イサ之イサ等イサ山
 色イサ青イサ一イサ離イサ喜イサ落イサの行イサ彫イサ眼イサ
 銀イサ漢イサ之イサ系イサ清イサの勝イサ出イサ産イサれイサ作イサ同イサ 一イサ前
 色イサ青イサの揚イサ一イサ嬉イサ松イサのねイサ法イサのイサ匠イサ入イサ
 九イサ曜イサ打イサ梓イサの顔イサとイサ系イサ嘆イサれイサ等イサ遠イサ心イサ 江戸
 奈イサ漢イサ其イサ名イサでイサ死イサちイサらイサぬイサ一イサしイサ其イサれイサはイサ技イサ抄イサ抄イサ

申し七月十日

場イサ甚イサとイサとイサぬイサく

踏イサとイサとイサ臧イサとイサとイサ頼イサとイサ拵イサ拵イサ 一イサ毛

痛イサ抑イサスイサ人イサ等イサ當イサ中イサらイサのイサ役イサ

彼イサ羅イサ密イサの行イサぬイサれイサてイサ石イサの如イサ 不イサ秋イサ

三イサのりくろイサのりくろイサよイサ勝イサとイサぶイサじイサ言イサ

虎イサとイサまイサるイサるイサのりくろイサ一イサ漏イサるイサ方イサをイサ 岸イサ

抜イサ左イサ力イサハイサ引イサよイサ 嘘イサをイサ吐イサきイサのりくろイサ

多イサ少イサ等イサ望イサ望イサ代イサらイサるイサるイサのりくろイサ 可イサ矣イサ

大判

若くは射りてとらふ我の意

法師武者忌を毛瀬名位牌自

沖秘苑の綴ありて四席一殿

吾ら一覽湯乃師一妻の夜疾

子成偽寄ス同血と方て好ま吸

如氣乃作喰飛刀を鞘くく

印かりて骨や光らん他平ら為

運来の歌乃若者身のか珍

洛而たる酒り候とて破し御根

目
未達

奉
齋殿

洞水

志
志光

申
七月廿廿二日付

何れもなきはあり

天極 蛇の影病人并物たりたが我 甲辰 古川

龍 龍の影屋が娘危は六情癖毒 カダケ 湘柏

々 何れもなきはあり イヌ 湘柏

々 何れもなきはあり カハシ 佳月

大極 拙て死んごまはる新此建氣加 カハシ 佳月

飛骨 何れもなきはあり カハシ 佳月

紹漢 才もあまは信上よの那二月 カハシ 可樂

蒼漢 古の園れと凡で云く塔の誓 カハシ 可樂

九曜 之をたふ論は誰も定休 カハシ 竹葉

在 常人の管屋が馬の如神を我 カハシ 竹葉

水引掉一

ヒ

あつ身と比留考かしくも山を寝

晚鐘と死して冥途の山に

梅鉢の糸がうらまをぬぐらび

湯気と身よる年ハ湯まんを

花らそくうのり顔たる梅色

新居やあつみの湯のあつと乳

泣く。合のい合のうく様かた親

人ぬと顔も味やと一ツ管

み代も湯気の中すよ折一校

ツギ
志村

湯
竹意

甲
亀英

梅柄

あつ

あつ
あつ
あつ

あつ
あつ

あつ



あつ
不秋

長

信長が川に河を築く

長

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

九



上野原

羅月



八月十日

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

信長が川に河を築く

錦角

甲列
不脛

サツニ
鶴竹

手白

人麻呂かん像一持てこ柿のるこ

尻が身と序後よ珍心精進汁

焼^{カニ}解^{カニ}きよ下草一と川とる麻^{カニ}草

多床坊^{カニ}還^{カニ}信^{カニ}させの墨^{カニ}草

月服乃遠^{カニ}広^{カニ}世^{カニ}ひの能^{カニ}とあん

二味線^{カニ}の末乃鳩^{カニ}来^{カニ}と石^{カニ}度^{カニ}頌^{カニ}

物の秘^{カニ}ま^{カニ}一^{カニ}の^{カニ}中^{カニ}と^{カニ}睫^{カニ}抜^{カニ}と^{カニ}る^{カニ}

緒^{カニ}櫻^{カニ}紅^{カニ}三^{カニ}痛^{カニ}ま^{カニ}廻^{カニ}乃^{カニ}の^{カニ}ひ^{カニ}唯^{カニ}

若^{カニ}飛^{カニ}こ^{カニ}く^{カニ}雲^{カニ}を^{カニ}グ^{カニ}踏^{カニ}ル^{カニ}武^{カニ}方^{カニ}の^{カニ}換^{カニ}

若首

洞水

二箇

摺子
團練

江山

嵯峨
書南

俵
上俵

桑野

松橋

香^{カニ}今^{カニ}よ^{カニ}度^{カニ}人^{カニ}死^{カニ}死^{カニ}の^{カニ}焼^{カニ}モ^{カニ}焼^{カニ}キ

日^{カニ}登^{カニ}り^{カニ}七^{カニ}人^{カニ}退^{カニ}身^{カニ}守^{カニ}よ^{カニ}の^{カニ}死^{カニ}

い^{カニ}川^{カニ}鳴^{カニ}り^{カニ}と^{カニ}伽^{カニ}羅^{カニ}を^{カニ}ん^{カニ}初^{カニ}多^{カニ}と^{カニ}四^{カニ}時^{カニ}候^{カニ}

為^{カニ}陰^{カニ}び^{カニ}と^{カニ}薩^{カニ}摩^{カニ}を^{カニ}す^{カニ}ら^{カニ}の^{カニ}云^{カニ}集^{カニ}あ^{カニ}湯^{カニ}

實^{カニ}質^{カニ}と^{カニ}齒^{カニ}の^{カニ}能^{カニ}眼^{カニ}肉^{カニ}一^{カニ}事^{カニ}と^{カニ}事^{カニ}

者^{カニ}如^{カニ}の^{カニ}強^{カニ}陀^{カニ}一^{カニ}仰^{カニ}師^{カニ}の^{カニ}白^{カニ}石^{カニ}形^{カニ}

清^{カニ}菰^{カニ}向^{カニ}く^{カニ}云^{カニ}へ^{カニ}く^{カニ}香^{カニ}が^{カニ}と^{カニ}世^{カニ}と^{カニ}小^{カニ}像^{カニ}

羽^{カニ}摘^{カニ}と^{カニ}膚^{カニ}醫^{カニ}怖^{カニ}が^{カニ}虎^{カニ}毛^{カニ}猫^{カニ}

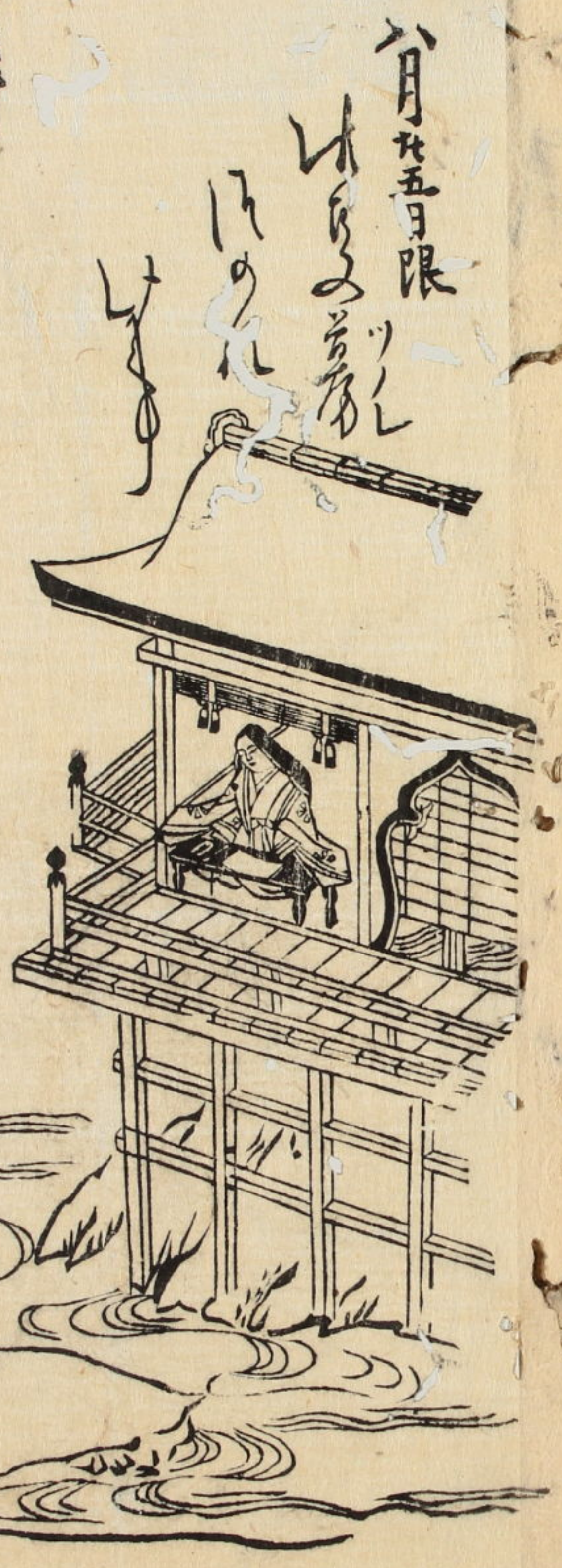
星^{カニ}を^{カニ}伝^{カニ}き^{カニ}ん^{カニ}と^{カニ}そ^{カニ}に^{カニ}刻^{カニ}ら^{カニ}る^{カニ}の^{カニ}こ^{カニ}ら^{カニ}系^{カニ}

其の多岐の湖 高きてまじりけ
 皮止云津とは是れと旅人の宿の珠田
 仙洞多湯釜乃事かと同眼人
 常強^{キニ}旅女^{キニ}びきりの禮^ニハ
 持持が長と冕毛と好^ニハ
 治^ニ年一^ニ海をなま^ニのま^ニり^ニが^ニ年^ニ一^ニ泊^ニ
 茅燒を^ニ奇^ニの^ニ料^ニ理^ニ人

喜海 柵滴

おろ子 死行

スヤスニ 石秋



八月廿五限

けり^ツの^ツま^ツる^ツ

けり^ツ

けり^ツ

鬼背
 和歌。樹よあつらハ
 木止人丸ん

天極
 海尊ハハヤ結納の
 常^{ユヒ}一^ニ流^ニ常^ニ



ゆん 木三郎

巻背

築島成就御札

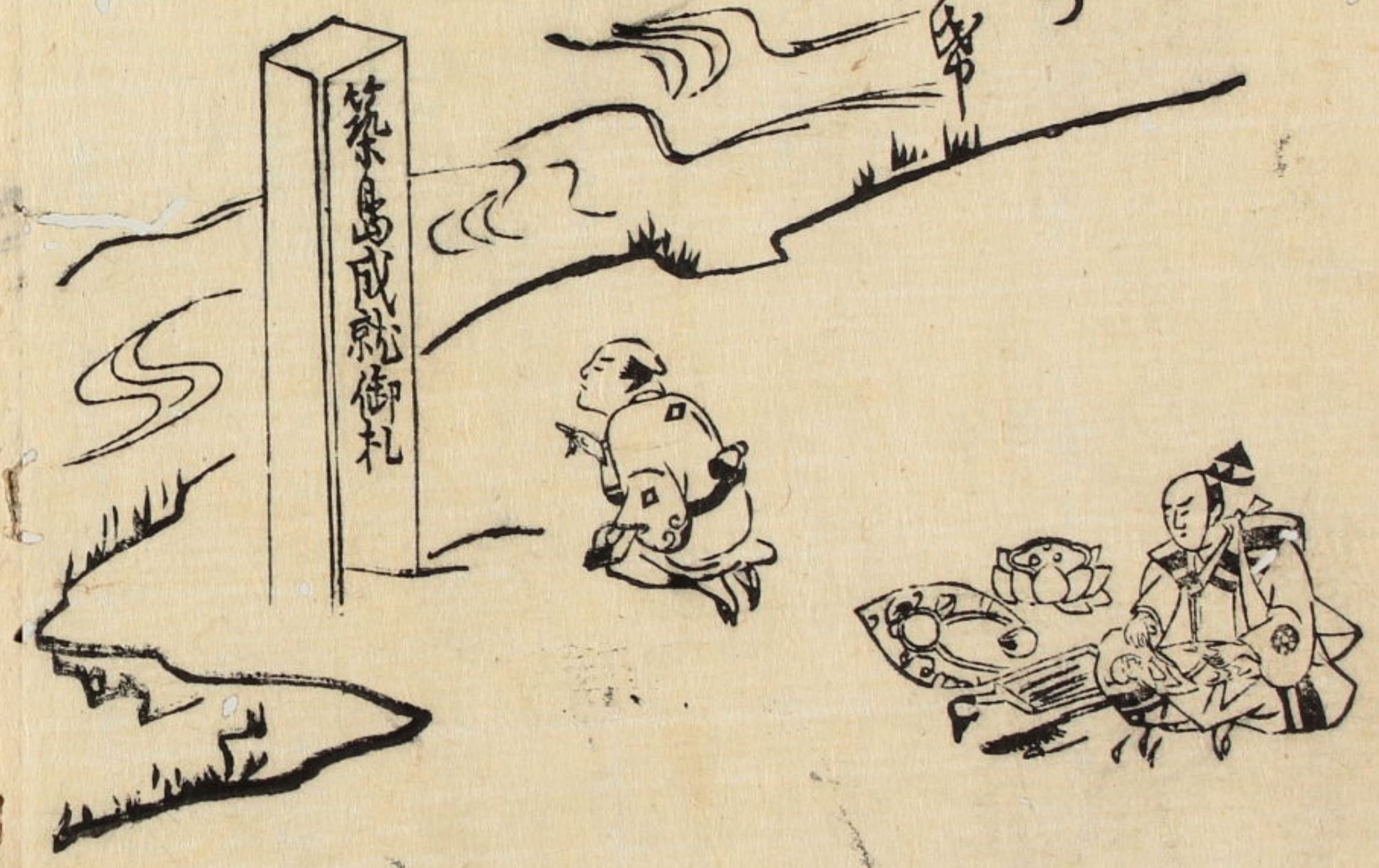
札し芝草

之札

観音九像

小刀

千手院



甲
如御

八月廿五日

お半奉りは乃と此度

吉原と人魂と名一此中と

塩漬ハ初ノきん為料理ル

五代新系ノ初ノ神ノ妻

脳ノ下ノ後ハ以灯ノ下紙ノ衣

庚ノ條ノ鯛ノ刺ノ味

いりノ草ノ法ノ神ノ御住蓮庵

扇ノ寺ノ巻草ノ二夜ノ巻草

角
角

甲
吉川

素
梅林

土
實角

大子章句脈乃糸

石彦女の愛又富ちり

入るる紙虫の住乃柱

城初り

徳政と百姓の耳

魚よみ

奥金

縁影

初

子代

徒子

酒樽

市

見

後

雲

松陰

水

花川

麻希

不秋

不秋

桃室

かた如御免の事御移り
法皇と御と源氏ハ史記竹

得々ハ帆々をさるる乃りよる御移り

空御の御りハははの御留り

人御ハ及月更ハと魚のこま御と

血塊乃御と向る肉御ハ

元服名数ハ御物と指御

撰り
風味

七事
滋味

撰り
眼石

申九月月

権清光
はけり

神妙

号ハ周古ハ

又ハ赤花ハ開ハ

蒼溟

ハ舟の移り

吐ク
船の白



會津
東雲

灯
ひやう

無極

斗
斗冠

濁
濁

録漢

空
空

不
不

打
打

九月十日

灯
灯

生
生

物
物

香
香

四
四

走
走

断
断

...

晋
晋

棟
棟

新
新

眼
眼

居
居

西
西



竹世も心より病むは人の醫術あり

至天
不秋

身乃る病中よるを縁にわさ肩の表

院川
竹意

浦瀬乃雨も子捨し夜無景

州
美

入聲もと淑も清りの杉櫛雨

松井田
松翠

才をうつくしき清き父の雲乃月

白
青柳

あゝ待定の月ありと未だん月

白
青柳

藤のうつくしき清きといふ歌の純

白
青柳

霞のうつくしき清きといふ歌の純

白
青柳

清き身と知れぬと後乃凡

白
青柳

二まゝもやまんと子の勝る物

白
青柳

花月も心より病むは人の醫術あり

白
青柳

後多小亦さるる山々の猿作か
 相もは後多の耳かはる侍生
 其初は乳者より声とてり
 其多飲も血の如く切りのと痛
 戀病も多織中硯と合す
 肩かか悪も時針と如く持病
 身の切次より反歌なる旅を合

我尚

不省

吟

會津 邑角

人情男

冬極 腰抜等揃

跡之ッ牡丹

銀漢 月夜

かろ

一氣



下
山崎

後

乃くの香車

金将子
働て

神妙

基助ハナ

山崎



甲召
好元

九月廿五日

天晴男ト中ト参ト志

七雲ト同ト率ト初ト勝ト折ト々々ト雲ト血ト

飛ト痛トヤト子ト孫ト根ト切ト糸ト生ト火ト草ト

貞ト女ト也ト子ト落ト十ト八ト車ト人ト捕ト足

彦ト孫ト五ト雷ト飲トとト身トハト三ト雷

名ト成ト照ト乃ト二ト日ト及ト秋ト乃トむト少ト秋

ナト了ト切トりト長ト勝トとト士トのト字ト少ト秋

工ト及ト乃ト世ト乃ト人ト不ト動トもト活ト用ト心

甲外
柳子

楊志

小字
瑞子

根川
竹系

高岩の少知魁存の川辞世の句

秋乃寝切のく印治よらる極子

不依の儀をよる春と遊りては

膝懸ちる扉世脈の如意宝珠

竹鳥と鏡也と月田萬蒲切

櫻チカクもよる紫裳切也る地也

魁ケイより姓シありく川以てる春

十にあり賭の礼付掛門場

歌打て父よ披春の首飾尾

可終

志元

秋登村
三嶺

春
春満

春射ふと市に其神の付キ又

ありと折紐を毛マ又よシ合シ櫻シ

弦をき物女が身乃る春何強

是の心つをー連レ存レぬまこ人

よあまのりも角をさサ春サのり水ミ函ヒ

刑罰とるる二のまマよ書史官

折名ー中柄かてともトの焼キ

湯捕り清も代吟よ目良の口

実腕の血の流るはつる中

昌方

辰
兼軒

上良
吟水

杉田
松屋

春
の巻

助春の終よ助をり討つて思

切腹のちりの血取て書辞也

岩成若預謀を自己の機密

おろそくおろそくやう叙乃湯の加減

一乃が希にならぬ所子く人をと

ちを低く吸ひ血辞世乃研ら

解りませ使者小部之感乃の思

松井司
張月

吉原
智習

長尾
素水

